

もっと元気に もっと豊かに

JA おのみち

2016.8
No.345



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ



協同組合が
よりよい社会を
築きます。

●国際協同組合連盟(ICA)が定めた
世界共通の協同組合のマークです。

特集

台風襲来に備えて



2 産地を守る人々

6 営農情報

9 北から南から新聞

12 あなたの町の渉外さん

13 耳よりニュース

15 女性部だより

16 ゆういらさんの菜園のススメ

17 健康だより

18 ポトト通信

19 フロスワード・野菜のレシピ

20 家の光のココにチュウもく!!

いつか見た風景



ヘビ、ハチ、クマなど、
人間に危害をもたらす生
物は意外と身近な場所に
住んでいます。この特集
では日本動物科学研究所
の今泉忠明所長が、危険
生物に出合わないように
する方法や、出合つてし
まった場合の適切な対処
法などを分かりやすく解
説しています。

これから季節は畑は
もちろん、道端や家中
にも危険生物が忍び寄っ
てくるかもしません。
自分の身を守るために、こ
の特集を読んでしつかり
とした知識を身につけま
しょう。

「農作業で出合う
危険な生物にご用心」P74~79

因島南支店 岡本 麻依



9月号の読みどころ

家の光のココに
チュウもく!!



時感旅行紀
いつか
見た風景

其の二十九

世羅町
バタンコの
実技練習風景

世羅町にて、次・三男対策として行われていた
バタンコ(自動三輪車)を練習する様子です



昭和30年ごろ、「農業こそ我が天職」という時代もあり、長男は農業で生活
できるが、次男・三男にはやや厳しい、という時代もありました。そこで東大
田公民館が昭和29年に始めたのが、バタンコの免許取得の奨励。「バタンコの免
許があれば生涯食いはぐれはない」を合言
葉に、地域の青年を対象に行つた活動で、
一般家庭にもほとんど普及しておらず、当
時の世羅町にも数台しかなかったバタンコ
に若者は夢中になり、ほとんど毎日、当時
の世羅町立大田小学校で競い合うように
練習していました。

この練習風景は昭和32年まで続き、昭和
35年にこのバタンコは解体の運命となりま
したが、多くの若者に免許と夢を与えてい
ました。

このコーナーでは、懐かしい風景や行事の写真を紹介します。古い写真をお持ちの方はお近くの支店・出張所・センターまでお知らせください。

JA おのみち

2016年
8月号
No.345

発行 尾道市農業協同組合
〒722-0014 尾道市新浜一丁目 10-31
TEL 0848-23-3331
FAX 0848-22-9305
URL : <http://www.ja-onomichi.or.jp>

編集 総合企画部 企画課
TEL 0848-23-3331
FAX 0848-24-2303
E-mail : ja-ono@bbbn.jp



8月

宮農情報

天気予報

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

水稻

9月に入ると多くの圃場で稻刈り作業が行われます。

今後の気温は平年並みやや高く推移されると予測されていますが、早期落水による品質低下には十分に注意しましょう。

【早期落水の防止】

落水時期が早すぎると、玄米肥大生長が抑えられ、収量や食味・品質の低下を招きます。落水時期の基準として（土壤条件・気象条件考慮）、湿田では出穂後20日～25日、乾田では出穂後30日頃を目標にしまします。登熟が遅れている場合は、落水ができるだけ遅くし、穂の熟色や稔実程度を観察しながら徐々に落水しましょう。

【刈取り作業】

適期に稻を刈取ることは品質向上の面で非常に重要です。天候に左右されます

が、極力適期刈取りに努めましょう。

適期より早いと青米や未熟粒の増加

及び刈取り時の落下粉の増加となりま

す。とくに食味低下に影響の大きい胴割

米は、品種間で発生のしやすさが異なり

ますが、一般には高温年での発生が多く、

また粉の水分が23%以下になると発生し

やすくなり降雨があると著しく促進さ

れますので注意が必要です。

また、朝露などで濡れている稻を刈る

のは、機械の故障や損傷粒の発生、収穫

ロスにもつながりますので稻が乾いてか

ら作業をしまします。

また、刈取り期には、コンバインとバ

インダーによる事故が起きやすく、特に、

圃場進入時や後退時の転落、転倒、詰ま

り除去時のフィードチャーンやカッター

への巻き込みが多いので、十分に注意

して作業を行いましょう。トラブルが発

生した場合は、必ずエンジンを止めて対

処し、事故防止を徹底しましょう。

また、仕上がり後は水分計で仕上がり

所に注油を行いましょう。

合（青味糊率）から判断していきましょう。

青味糊率では、コンバイン収穫で、5%

になったとき、バインダー収穫で、10%

になったときが刈取りの判断基準となります。

【刈取り作業の事前チェック】

・コンバイン、バインダーなどの取扱説明書で安全作業、注意事項を必ず調べましょう。

・燃料、各オイル、冷却水、バッテリーなどの点検項目をチェックし、必要箇

所に注油を行いましょう。

・各操作方法や機械の機能について確認しておきましょう。

・コンバインから離れる場合や機械を

チェックする場合には、必ずエンジン

を切って駐車ブレーキをかけましょう。

【刈取りの日安】

成績期は多くの品種で出穂してから40日前後です。しかし、出穂期から成熟期までの期間は出穂後の天候がよければ早

く除虫作業を行いましょう。

・圃場での作業に応じた刈取り条件を

チェックしましょう。（倒伏状態など）

・刈取りの高さを確認しましょう。

・エンジンの緊急停止装置を確認しま

しょう。

・詰まりが発生した場合は、必ずエンジ

ンを停止してから確認しましょう。

・収穫後、穀粒が残っていると、ネズミ

の工サとなるばかりではなく、侵入し

たネズミに電線などをかじられて故障

しあります。

・出荷前には必ず栽培管理表を提出して

ください。

・目標水分14・5%～15・0%の乾燥調

整にしてください。

・皆掛重量は30・5kgにしてください。

・定められた米出荷袋（いーねくん袋）

へ品種名・検査請求者名・住所・生産

地を必ず明記記載してください。

・支店・出張所・営農センターへの出荷

は検査の前日までにお願い致します。

【平成28年産米の出荷についてのお願い】

・出荷前には必ず栽培管理表を提出して下さい。

・目標水分14・5%～15・0%の乾燥調

整にしてください。

・皆掛重量は30・5kgにしてください。

・定められた米出荷袋（いーねくん袋）

へ品種名・検査請求者名・住所・生産

地を必ず明記記載してください。

・支店・出張所・営農センターへの出荷

は検査の前日までにお願い致します。

の原因となります。収穫作業後は、ワラなどのゴミを取り除き、掃除口を開けて穀粒を機械の内部からできるだけ取り除きましょう。そして、必要箇所に注油して格納しましょう。

品質に直接影響しますので慎重に行なってください。刈取り直後の糲は温度が高く水分も多いので、醸酵しないよう刈取ったときが刈取りの判断基準となります。

通風乾燥で余熱や水分を落としたら火力乾燥に移りますが、急激な乾燥や過乾燥は胴割糲の発生に直結しやすいので慎重に行ってください。火力乾燥後はもう一度通風乾燥で余熱をとりましよう。

また、仕上がり後は水分計で仕上がり所に注油を行いましょう。

通風乾燥で余熱や水分を落としたら火力乾燥に移りますが、急激な乾燥や過乾燥は胴割糲の発生に直結しやすいので慎重に行ってください。火力乾燥後はもう一度通風乾燥で余熱をとりましよう。